

水産物の実態について

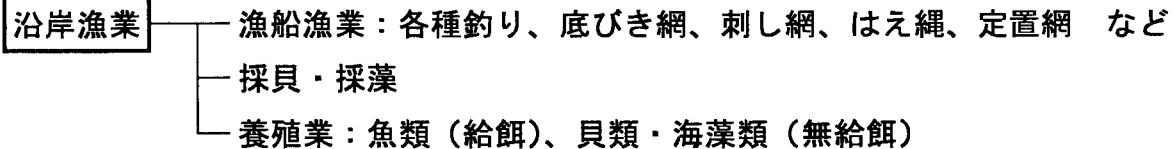
2005年5月25日

JF全漁連（全国漁業協同組合連合会）

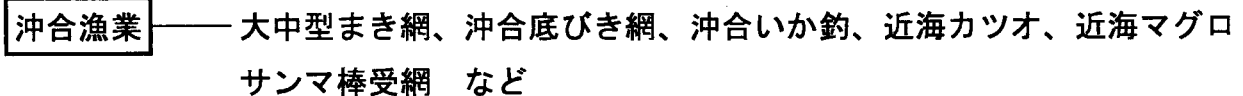
水産物の実態について

1. 生産の概要

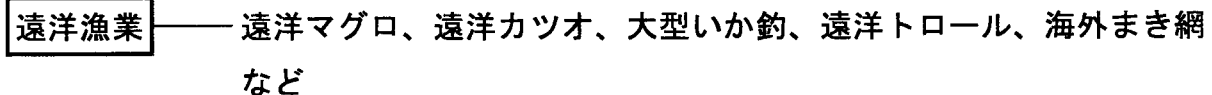
(1) 漁業種類



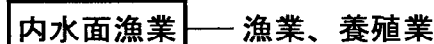
◇主に10トン以下の漁船を使用する漁業で、漁業種類も獲れる魚種も多種多様。大半が日帰りの操業。養殖業や定置網なども沿岸漁業に含まれる。



◇主として日本近海で操業（一部はロシア水域でも）。20～200トン程度の漁船を使用。漁業種類によって数日から1ヶ月程度（操業海域を変えながら）操業。



◇主に海外の200海里水域内、あるいは原則として外国の制約を受けない公海を漁場とする。



◇河川、湖沼等の内水面で行われる漁業。

*これらの漁業で漁獲・生産され、一般的に食用等に利用される種類は200～300種類といわれている。（日本の近海では魚類だけでも約3,900種類が確認されている。）

2. 生産量・輸入量

(1) 国内生産量

単位;千トン

		1999年	2000年	2001年	2002年	2003年
海面	沿岸漁業	1,605	1,576	1,545	1,489	1,577
	沖合漁業	2,800	2,591	2,459	2,258	2,543
	遠洋漁業	834	855	749	686	602
	養殖業	1,253	1,231	1,256	1,333	1,251
	小計	6,492	6,252	6,009	5,767	5,973
内水面	漁業	71	65	62	61	60
	養殖業	63	58	56	51	50
	小計	134	123	117	113	110
合計		6,626	6,375	6,126	5,880	6,083

(2) 主な魚種の生産量（海面漁業）

単位;千トン

	1999年	2000年	2001年	2002年	2003年
マグロ・カジキ類	356	310	309	301	271
カツオ類	317	369	314	333	345
サケ・マス類	192	179	221	235	287
イワシ類	944	629	569	583	685
アジ類	258	282	256	238	280
サバ類	382	346	375	280	329
サンマ	141	216	270	205	265
ブリ類	55	77	67	51	61
ヒラメ・カレイ類	78	79	71	70	68
タラ類	438	351	285	243	253
タイ類	26	24	24	27	25
イカ類	498	624	521	434	386
上記以外の魚種	1,554	1,534	1,470	1,435	1,467
合計	5,239	5,022	4,753	4,434	4,722

(3) 主な魚種の生産量（養殖業）

単位;千トン

	1999年	2000年	2001年	2002年	2003年
ブリ類	142	137	153	162	158
マダイ	73	82	72	72	83
ホタテ貝	241	211	236	272	258
カキ類	236	221	231	221	225
コンブ類	60	54	63	51	51
ワカメ類	90	67	57	54	60
ノリ類	363	392	373	436	347
上記以外の魚種	70	68	70	65	69
合計	1,274	1,231	1,256	1,333	1,251

(4) 主な魚種の輸入量

単位;千トン

	1999年	2000年	2001年	2002年	2003年
活・生鮮・冷蔵・冷凍	2,612	2,683	2,743	2,720	2,369
エビ	260	260	256	260	243
マグロ・カジキ類	293	323	322	366	339
サケ・マス類	238	232	276	270	216
カニ	123	124	108	105	106
タラ(すり身含む)	152	155	177	164	132
タイ	103	116	86	74	56
イカ	106	98	82	96	84
サバ	171	160	174	149	129
ヒラメ・カレイ類	70	76	67	76	68
アサリ	69	77	76	61	50
アジ	64	62	64	49	43
塩・干・くん製品	37	40	37	39	38
ニシンの卵	8	9	8	8	9
サケ・マスの卵	5	5	4	5	5
調整品	280	323	345	372	358
ウナギ	57	71	69	60	42
その他	487	499	698	691	561
魚粉	341	333	473	475	383
合計	3,416	3,544	3,824	3,821	3,325

(5) 主な輸入先別輸入量

単位;千トン

	1999年	2000年	2001年	2002年	2003年
中国	517	574	683	703	587
米国	371	363	421	407	340
チリ	301	300	332	310	257
タイ	209	222	241	259	251
ロシア	226	225	204	190	211
ノルウェー	292	280	284	254	195
台湾	131	155	160	199	190
韓国	196	206	183	181	150
インドネシア	118	113	127	134	125
ベトナム	69	71	80	97	103

資料：農林水産省「漁業・養殖業生産統計年報」
財務省「貿易統計」

3. 水産物の特性（生態等）

（1）移動範囲の広い魚類

- カツオ類、マグロ類、シイラ、サンマ類、サメ類（高度回遊性）
- 浮き魚全般（サバ類、サケ類、マス類、イワシ類、スルメイカ、ウナギ、その他多数）

（2）移動範囲の狭い魚類

- カレイ類、ヒラメ類、マダイ、カサゴ、カニ類 など

（3）定着性のもの

- 貝類
- 海藻類

4. 魚介類の名称

水産物は、地方や成長過程で様々な呼び方があり、また、最近では新たな種類の水産物が輸入されるなど特有の事情があることから、水産庁では魚介類の名称のあり方について検討し、魚介類の名称のガイドラインを策定した。

ガイドラインでは、原則として標準和名を表示することとしているが、地方名や成長過程での名称も表示できることとし、併せて外国から輸入される水産物の名称についても整理した。

（1）標準和名とその他の一般的名称（例）

標準和名	その他の一般的名称
クロマグロ	ホンマグロ
シログチ	イシモチ
ババガレイ	ナメタガレイ
ウバガイ	ホッキガイ

（2）地方名（例）

標準和名	地方名
アナゴ	ハモ（北海道・東北）
スルメイカ	マイカ（北海道・三陸）
キダイ	ハナダイ（神奈川）

(3) 成長段階や季節に応じた名称 (例)

標準和名

ブリ

成長名

ワカシ→イナダ→ワラサ→ブリ (東京)

ツバス→ハマチ→メジロ→ブリ (大阪)

季節名

シロザケ

アキアジ (秋頃の産卵回遊)

トキシラズ (春から初夏にかけて沿岸に回遊)

(4) 輸入物 (例)

標準和名又はその他の名称

マジェランアイナメ、メロ など

キングクリップ

ナイルパーチ

使用しない名称

ギンムツ、ムツ

アマダイ

スズキ、シロスズキ

5. つくり育てる漁業

(1) 養殖業

養殖業は大きく分けて、餌を与える魚類養殖と、無給餌の貝・海藻類養殖に分けられる。

魚類・・・ブリ類、マダイ、トラフグ、ヒラメ など
貝類・・・ホタテ、カキ など
海藻類・・・ノリ、ワカメ、コンブ など

また、その種の特성에応じて、育成段階等に応じて、養殖場所を移す場合がある。

①ブリ

- 種苗（モジャコ）→養殖地
- 一定サイズまで育成した種苗→養殖地

②ギンザケ

- 孵化→種苗育成（内水面）→養殖地（海面）

③ホタテ

- 種苗を一定期間育成（半成貝）→養殖地

④カキ

- 種苗→養殖地

⑤ワカメ

- 種苗→養殖地

(2) 栽培漁業（種苗放流）

シロザケ、マダイ、サクラマス、ヒラメ、トラフグ、クルマエビ、アワビ、ホタテ など